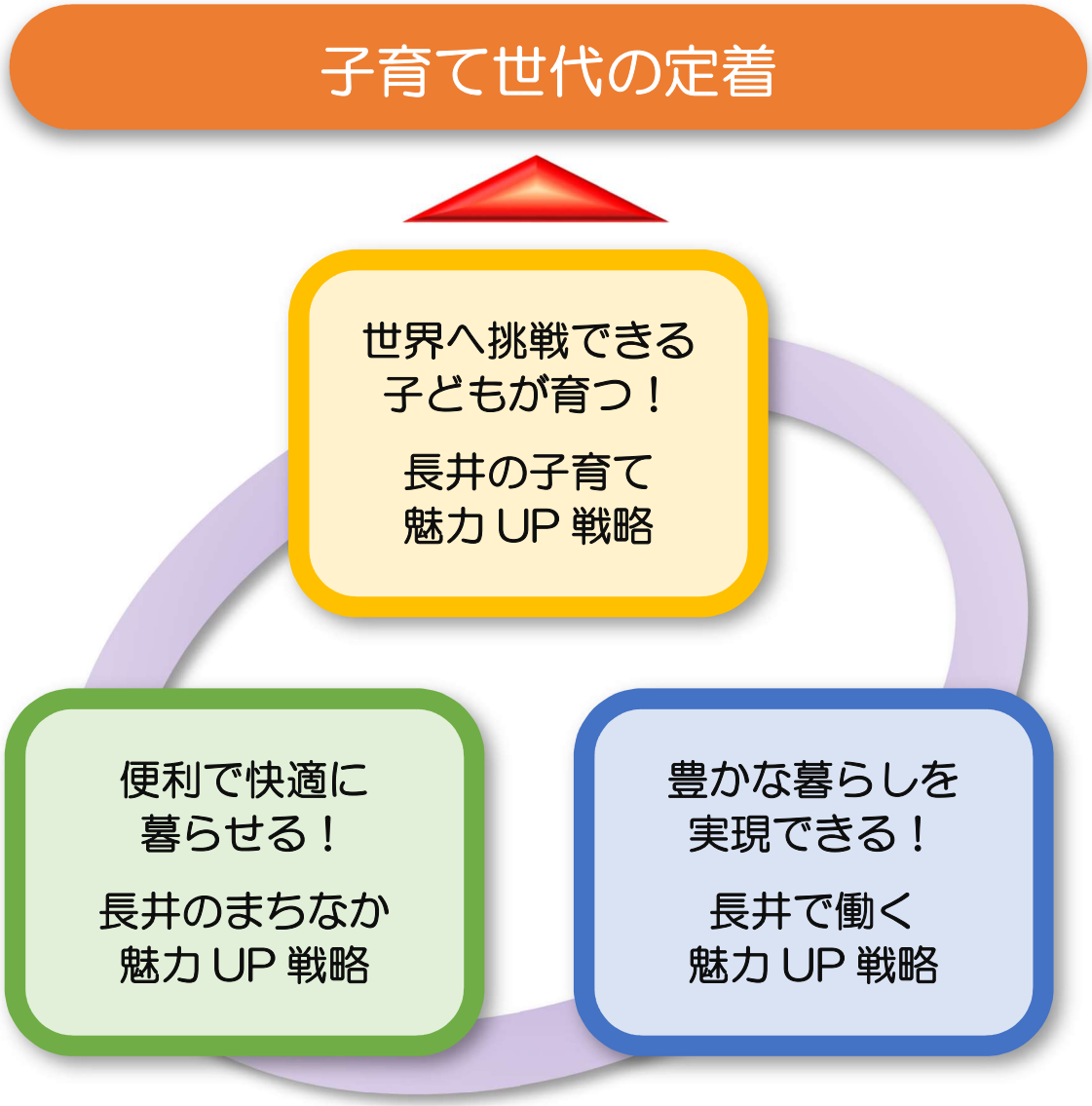
重点戦略の総括

１　重点戦略について

重点戦略は、行政経営資源（予算・人材）の選択と集中によって、後期基本計画期間内（令和元年度～令和５年度）に様々な課題の解決に向けて、特に重点的・優先的に取り組む事業を示すものです。

基本目標や個別施策の枠を越えて、分野を横断して事業に取り組むことにより、基本目標の達成と目指すまちの姿を段階的に実現していくとともに、他の施策を牽引し、総合計画全体の着実な推進を先導していくものです。

上記の考え方に基づき、重点戦略を以下のとおり設定しました。



近年、加速度的に進む人口減少は市の存続に関わる最も重要な課題となっています。人口の減少に歯止めをかけるためには、特に「子育て世代」が市に定着することが必要です。また、子育てだけでなく職場や地域でも活躍する子育て世代の定着によって、すべての世代が活き活きと生活し、活躍できる好循環を生み出し、将来像の実現につなげることとしています。

２　各戦略を取り巻く現状

（１）世界へ挑戦できる子どもが育つ！長井の子育て魅力ＵＰ戦略

①社会状況

長井の子育て魅力ＵＰ戦略は、子育て世代に選ばれる子育てや教育の環境に魅力のあるまちを目指すものです。その実現のために、施設（ハード）や支援（ソフト）の両面から子育てしやすい環境を整備するとともに、「世界を相手に挑戦できる子ども」を育てる教育や子どものふるさとへの愛着を育てる教育を展開することを目標に取り組んできました。

近年、少子化や核家族化、共働き家庭の増加、就業形態の多様化などにより、子育て支援に関するニーズは複雑になっています。また、ひとり親世帯の増加に伴う子どもの貧困の増加が懸念されるなど新たな課題も発生しています。

また、デジタル化の進展などによって国際交流機会の拡大や働き方の多様化が進んでいる社会状況にあることから、子どもたちが現代社会を生き抜く力を身に付けられる教育機会の創出が求められています。

②後期基本計画期間における主な取組

子育て支援に関するハード面の整備として、保育施設の受入れ機能を強化するため施設整備に対する支援を実施しました。また、子どもの一時預かりや育児相談、屋内遊戯施設などの機能を有する「子育て世代活動支援センター」の整備を行いました。

ソフト面の取組みとしては、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を図ってきました。出産をお祝いする育児用品のプレゼントや子育て応援アプリによる情報発信を行うとともに、子ども家庭総合支援拠点における子育ての悩みや家庭の問題など様々な相談への早期対応に努めています。

学校教育では、「長井の心」を通じて地域への愛着を形成するとともに、世界を相手に挑戦できる子どもを育てる教育として、外国語指導助手の配置や、インターネットを活用したマンツーマン英会話によって小中学校における英語教育を充実しています。課外においても、旧長井小学校第一校舎などにおいて、起業家教育やハイパー学童クラブでの活動、プログラミングを活用した活動など特色ある取組みを実施してきました。

また、医療費無料化の高校３年生相当への拡充や、金融機関と連携した「黒獅子のさと教育ローン利子補給補助金」による教育資金に対する支援など、子育て世帯の家計に対する支援も進めてきました。

（２）便利で快適に暮らせる！長井のまちなか魅力ＵＰ戦略

①社会状況

長井のまちなか魅力ＵＰ戦略は、まちなかに行けば生活に必要な機能がそろう、暮らしやすくて魅力的なまちを目指すものです。

令和２年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下における外出自粛ムードによって、まちなかへと足を運ぶ人が大幅に減少しましたが、近年は人の流れも回復傾向にあります。都市機能については、人口減少社会においても必要な都市機能を維持するため、都市機能の集約化が求められています。また、まちなかの利便性向上と同時に、周辺地域に住む市民もまちなかに足を運びや

すい公共交通の整備が必要です。

②後期基本計画期間における主な取組

令和２年度の市民文化会館の大規模改修をはじめ、市役所新庁舎及び併設するまちなか交流施設の整備、タスの一部フロアのリノベーション、公立置賜長井病院のリニューアルといった公共施設整備によって、より便利で快適な都市機能が備わりました。令和５年度には子育て世代活動支援センターと多機能型図書館の機能を持つ公共複合施設「くるんと」がオープンしました。併せて、市役所新庁舎周辺の道路整備の実施や、本町通りなどの街路整備が進んだことにより、まちなかに新たなにぎわいが創出されています。

令和３年度にスタートした「第２期　長井市中心市街地活性化基本計画」に基づき、「時代（とき）・エリア・人をつなぐ」をテーマに、まちなかの都市機能の充実や回遊機能向上、商業活動の活性化について、官民一体となった取組みを進めています。また、「道の駅　川のみなと長井」におけるレンタサイクルの設置や、まちなかで使えるクーポン事業などによる店舗や商店街との連携強化、地域連携ＤＭＯや観光ボランティアガイドなどまち歩き観光の促進によって、中心市街地での回遊を促す新たな仕組みづくりに取り組んでいます。

魅力ある中心市街地と各コミュニティセンターを核とした周辺地域の小さな拠点を公共交通ネットワークでつなぐ、コンパクトシティ・プラス・ネットワーク構想を推進してきました。現在運行している市営バスやフラワー長井線などの公共交通網の運行維持と機能を強化した交通システムを構築し、住み慣れた土地でいつまでも快適に生活できるまちづくりを進めています。市営バスについては、令和３年１０月から路線の改正を行い、市内２２カ所の「らくらく乗換」の実施や、高校生の通学にも利用できるような時刻設定にするなど、効率性と利便性の向上に取り組んでいます。また、スマートシティの取組みの一つとして、デジタル技術を活用し、市営バス利用者のより詳細な情報の取得に取り組むとともに、森・金井神エリアでのデマンド交通の実証実験を併せて実施し、さらなる効率性と利便性の向上に向けて取り組んでいます。

（３）豊かな暮らしを実現できる！長井で働く魅力ＵＰ戦略

①社会状況

長井で働く魅力ＵＰ戦略は、市内に、働く場所も住む場所もある「職住近接」のまちの魅力や、手厚い子育て支援や利便性の高い都市機能とともに暮らしの魅力をさらに向上させ、「働いてヨシ」「住んでヨシ」のまちを目指すものです。

コロナ禍における経済活動の停滞や、原油価格・物価の高騰等による市内産業への影響に加え、人手不足が喫緊の課題となっています。少ない従業者数で同規模の生産や売り上げを維持するため、生産性の向上や産業の高付加価値化、新たなビジネス展開が求められています。また、全国的に広がりを見せる多様な働き方に対応できるよう、市内におけるテレワーク環境の整備や、長井の魅力を発信し人を呼び込む方策も必要です。

観光業については、地域連携ＤＭＯ「やまがたアルカディア観光局」を中心とした観光地域づくりへの取組みによって、コンテンツの充実化が図られ、観光客数も順調に増加しました。しかし、コロナ禍による観光需要の停滞が大きな打撃となっています。今後は、マイクロツーリズムやオンライン

ツーリズムといった、コロナ禍でも観光を楽しむことができる新たな手法への取組みや、ウィズコロナ社会に耐えうる受け入れ対応を整えることで、インバウンドの再開を視野に入れた誘客を図っていく必要があります。

住環境については、宅地分譲の販売が早期に完売したほか、子育て世代定住促進住宅への入居などによって市外からの転入する世帯が多く見られます。しかし、家族形態の多様化や居住ニーズの変化に伴う空き家の増加が新たな課題となっています。

②後期基本計画期間における主な取組

しごとの魅力づくりとして、農業の担い手を増やすため、新規就農者への研修強化や就農に必要な初期費用の軽減策を実施するとともに、６次産業化の振興を図り、各事業者の実情に沿った支援を展開しながら販路拡大に取り組んできました。

新たな仕事を創り出すには、従来の産業モデルによらない新産業を創出し、誘致するとともに、チャレンジする人材が求められることから、ビジネスチャレンジコンテストを開催し、創業までの機運醸成と、創業から経営の安定まで市内各関係団体と連携し支援してきました。また、本市の産業振興拠点であるタスの一部改修によって、コワーキングスペースやワーケーションルームを新設し、市内外のビジネス客にとってさらに利用しやすい施設としてリニューアルしました。

観光振興としては、やまがたアルカディア観光局が中心となり、地域の特色を活かした事業を展開しており、コロナ禍の状況に対応したオンラインツアーの催行やアウトドア観光の需要拡大に対応した集客の取組みも進め、地域の魅力を発信し、アルカディア地域への関心を高めています。地域連携をさらに強化し、ウィズコロナにおける新たな観光形態、地域の受け入れ態勢とコンテンツ開発を進めながら誘客に取り組んでいます。

本市に関心を寄せていただいた移住・定住希望者には、長井の生活を知っていただき、地域と交流する機会を創出し、具体的に移住・定住につなげられるよう移住支援事業に取り組んできました。住環境の整備についても、定住促進補助事業、住宅新築補助事業、住宅リフォーム補助事業等を実施し、人口流出の抑制や市外からの移住促進につなげています。